

第 136 回「言葉の院外処方箋」

ニューモア溢れ心温まる ～ 病院の使命 ～

2022 年 11 月 11 日、wife とワイルドスポーツクラブ:高橋謙三氏の企画【『日光東照宮 紅葉 と華厳の滝』へのバス旅】に参加した。 昨年は、『富士山に見える河口湖への旅』であった。 早速、参加者の看護師の戸田裕子氏から素晴らしい写真が送られて来た（画像 1、2）。 大いに感激した。 参加者の記念誌が、年内に製作（編集長：森尚子氏、雑用係、写真撮影担当：三国浩晃氏）されるとのことである。 また、作詞/作曲/ピアノ教師で、戸田裕子氏と共に、『スルメ症候群』認定証（画像 3、4）を授与されている中野綾子氏が、作成中の『スルメ症候群数え唄』の 1 番を熱唱された。 年内には全曲が完成とのことである。 皆様の熱意と使命感には、ただただ感服である。 早速、【先日はステキなバス旅をありがとうございました。 『人生思い出づくり』＝「良き出会い、良き経験」に感謝です。 『スルメ講演』から『スルメ症候群』へそして『スルメ症候群数え唄』までに進化。 先生のスルメへの愛を感じます。 中野さんの歌詞と曲の完成が楽しみです。】とのニューモア溢れる心温まるメールを頂いた。 まさに『冗談を本気で実現する胆力』で、皆様にとっても『人生の忘れ得ぬ思い出の今回の旅』となることであろう！

筆者は、2007年から毎月1回、『武士道/新渡戸稲造（1862-1933）著・矢内原忠雄訳』（岩波文庫）と『代表的日本人/内村鑑三（1861-1930）著・鈴木範久訳』（岩波文庫）との交互の読書会を行なっている。 『代表的日本人』の『二宮尊徳（1787-1856）』は、「最良の働き者は、もっとも多くの仕事をする者でなく、もっとも高い動機で働く者の学び」であった。 想えば、2011年『二宮尊徳』の終焉の地（栃木県日光市今市）にある今市病院（理事長：熊谷安夫先生）で講演の機会が与えられた。 その時の【地域に生きる病院の使命は「医療の開放型」であり、市民に開かれた「Medical café」は時代の要請である】が、今回の『日光の旅』で鮮明に思い出された。

2022 年 11 月 14 日は、「新渡戸稲造記念センター in 新渡戸記念中野総合病院」から、筆者が理事長を務める 新渡戸稲造が援護した河井道(1877-1953)が創設した恵泉女学園（世田谷区）の学園学校会議に向かった。



1



2

スルメ症候群
認定証

戸田 裕子 殿

貴殿は以下の診断基準を満たしたため、ここに認定いたします。

- 一、 噛めば噛むほどに旨味を感じる
- 二、 噛んで得た旨味が自身の血となり肉となる
- 三、 必要なときに噛み旨味を得ることができる

2022年10月28日

樋野KANZO倶楽部
新渡戸稲造学校

3

スルメ症候群
認定証

中野 綾子 殿

貴殿は以下の診断基準を満たしたため、ここに認定いたします。

- 一、 噛めば噛むほどに旨味を感じる
- 二、 噛んで得た旨味が自身の血となり肉となる
- 三、 必要なときに噛み旨味を得ることができる

2022年10月28日

樋野KANZO倶楽部
新渡戸稲造学校

4